

サシバの鳴き声ひびく谷津 ～その飛翔をいつまでも～

千葉県緑区 松下 恵美子

ピック〜ィ、ピック〜ィと甲高い鳴き声が谷津田の上空に響きわたっています。南方からやってくる夏の渡り鳥、サシバが今年も小山の谷津田にきてくれました。サシバはタカの仲間でカラスほどの大きさの猛禽類です。バタバタと忙しそうに飛んでいるカラスとは違って、上空を悠々と羽をのばしたまま飛んでいるのが特徴的です。毎年、4月半ばから下旬のころピック〜ィという鳴き声が聞こえ、「あ〜今年もきてくれたんだ。」とその飛翔に気づくのです。今年は4月18日にこの鳴き声を初めて聞きました。見上げると4〜5羽の仲間と谷津田上空をゆっくりと旋回しながら鳴き続けていて、まるで他の土地に向かう仲間と別れを惜んでいるようでした。

それからは毎日のように1羽で谷津田や住宅地の上空をピック〜ィと鳴きながら飛んでいました。1週間ほどすると2羽で飛んでいるのを見かけました。どうやらカップルが成立したようです。そのあとはめったに鳴き声を聞かなくなりました。ウグイスのホ〜ホケキョと一緒に、ピック〜ィはオスの求愛だともいわれています。カップルとなったのちは、林の中に巣を作り、一夏、繁殖、子育てをするため、あまり鳴かなくなるそうです。

何度か激しいサシバの鳴き声が聞こえるので、空を見上げると2〜3羽のカラスに追い掛け回されているのを目にしました。タカとか猛禽類とかというイメージがありますが、体も小さいためか数匹のカラスにいじわるされてしまうこともあるようです。また、3月下旬に田起こしをしていた時のことです。林の中からピック〜ィと聞こえるので、もうサシバがきてくれた？この地で越冬した？と思って鳴き声のする方を見ると、小さな鳥がピック〜ィと鳴きながら飛んで行きました。どうやら、カケスがサシバの鳴き声をまねていたようです。カケスがまねて鳴くなんて、サシバの鳴き声に特徴あるから？それともサシバの鳴き声が聞きなれた身近な鳥だから？と不思議に思ったこともあります。

「近年、生息分布が急激に縮小している」という理由から、サシバは2年前に環境省のレッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定されました。その環境省のHPの「サシバの保護の進め方」によると、「サシバは、繁殖前に両生類やハ虫類を捕食し、繁殖後は昆虫類を捕食するため、水田と林の両方が必要であり、谷底の平地が水田で周囲を丘陵林が囲んでいる谷津田を生息地としている」とのこと。そういった環境が日本で減ってきていることや、越冬地である東南アジアの森林伐採などが、生息数減少の原因といわれています。そのため、国内の里山の保全だけでなく、東南アジアの森林維持も訴えていく必要がありそうです。

夏の終わりころになると、再び、ピック〜ィの鳴き声を聞くようになります。どうやら、幼鳥も成長し空を飛ぶ練習を始めたのかもしれない。そして9月中旬から下旬ごろに他の地で過ごした仲間たちと集結し、越冬する東南アジアに向かいます。この「タカの渡り」は、サシバの集団が上昇気流に乗って帆翔しながら南方に向かっていくのだそうです。その上昇する様子は蚊柱のようにも見え、「タカ柱」と呼ばれています。渥美半島の伊良部湖岬、鹿児島島の佐多岬などで見られる「タカ柱」は、全国各地で過ごしたサシバが何千、何万と集結するため、圧巻とのこと。その後、宮古島、伊良部島などで休息をとりながら東南アジアへ渡っていくそうです。数は少ないですが、関東以北で過ごしたサシバが、富津岬や野田市三ヶ尾や横須賀の武山などに集結し飛翔している報告もあります。

みなさんもこのピック〜ィを耳にしたら上空を見上げてみてください。悠然と羽を広げて飛んでいるサシバの姿を見ることが出来ますよ。来年もこの谷津田が子育ての地として選ばれるように、今年の田作りに励みたいと思います。



サシバ (撮影:田中正彦氏)

寄生生物の驚きの生態

千葉市緑区 高山 邦明

子どものころ、捕まえてきたカマキリで遊んでいた時にお尻からヒモのようなものが出てきて、それがクネクネ動くのにビックリしたことを今でも鮮明に覚えています。しばらくして、それがハリガネムシという寄生虫であることを知りました。その後、ハリガネムシに出会うこともなく、特に関心もなくこれまで過ごしてきたのですが、少し前に新聞にハリガネムシに関する興味深い記事が出ていました。

ハリガネムシは実は水生昆虫で、コオロギなどに寄生するのですが、その体内で成育した後に再び川に戻るために、コオロギの脳をコントロールして水に飛び込ませるといいます。寄生生物が宿主 (= 寄生される生物のこと) の脳をコントロールする？ にわかに信じられないような話だったのですが、実はヨーロッパの方では10年以上前から研究が行われているとのことでした。

ハリガネムシは水中で卵を産み、それを水生昆虫が食べて体に入ると腸の壁を破って入り込むのだそうです。水生昆虫はやがて羽化して水場を離れて空を飛び、それをコオロギやカマドウマ、カマキリなどが食べて、2番目の宿主に移動します。昆虫の体の中で2-3か月かけて大きく成長したハリガネムシは最後に宿主の脳に作用して川に飛び込ませて故郷に帰るといわけです。脳に影響を与える特殊なたんぱく質をハリガネムシが作るというから驚きです。

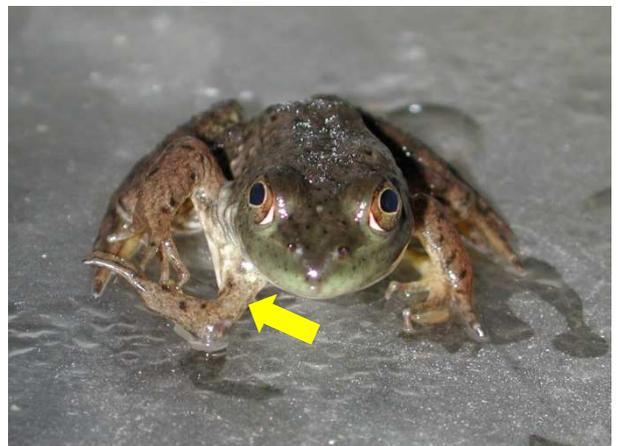
ハリガネムシが特別なのかと調べていたら、昨年(2014年)のナショナル・ジオグラフィック誌11月号に“世にも恐ろしい、心を操る寄生体”という題名で、同じように宿主の脳をコントロールする寄生生物の話がたくさん掲載されていました。

- テントウムシに寄生するコマユバチの仲間：テントウムシの体内で成長した幼虫は体を破って出てきてマユを作るが、テントウムシはマユの上にじっと留まってマユを外から守るようコントロールされる。
- クモに寄生するハチ：クモの体内で成長した幼虫はクモに通常の網ではなく、数本の太い糸が1点に集まるような形の網を作らせ、体から出てきて安全なそこにマユを作る。
- メダカ類の小魚に寄生するウズムシ：成長すると小魚に水面近くを泳がせたり、お腹を上に向けて泳ぐようにさせたりして鳥に捕まりやすくさせ、魚から鳥の体内に移動する。
- ネズミに寄生する原生生物のトキソプラズマ：ネズミに寄生後、次の宿主であるネコに移動するために、ネズミがネコの臭いを気にしなくなったり、ネコの尿に興味を持ったりするようにさせる。
- ヨコエビに寄生する鉤頭(こうとう)虫：幼生がヨコエビの体内で成長すると、それまで水底にいたヨコエビを水面近くに浮上するようにコントロールし、水鳥に捕食させて、鳥に移動する。
- ウシガエルに寄生する扁形動物リベイロイア：オタマジャクシの脚の付け根に寄生し、脚を余計に生やしたり、逆に足りなくさせたりして鳥に捕まりやすくさせ、鳥に移動。
- マイマイガなどの幼虫に寄生するバキュロウィルス：幼虫の体内で生育し、宿主を離れる段階になると幼虫を興奮状態にさせ、一心不乱に葉を食べ続けた後、木を登らせ、葉の上や日の当たる幹など捕食動物に見つかりやすい場所に移動するとじっと動かなくさせる。

10年以上前に息子と近くの谷津田に生きもの探しに行った時に、5本足のウシガエルを見つけたことがあります(右の写真)。足が5本もあるというのは何とも不気味で、息子も大層気味悪がっていました。当時、インターネットで調べた時は、国内でも時折記録があり、場所によっては比較的高い頻度で見られるが、なぜ足の数が多いのかは不明とのことでした。その謎がようやく解けてスッキリしたもの、やはりあまり気持ちがいいものではありませんね。

もう一つ、初夏の谷津でヒトリガという蛾の毛むくじゃらの幼虫があちこちの背の高い草の先端で死んでいるのを見ることがあり、こちらも不気味さを感じていたのですが、それもマイマイガの幼虫のケースと同じように恐らく寄生生物によってコントロールされた結果かと思われます。

生きものの世界というのは本当に驚きでいっぱいですね。



谷津田で見つけた5本足のガエル(撮影: 田中正彦氏)



里山たんけんレポート

第184回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2015年5月3日(日) 晴れ

好天に恵まれ、たくさんの花や生きものに触れ合うことが出来ました。先ずは林内から。山の手入れを始めて適度の日差しが入るようになったので、隠れていた植物が目につくようになってきました。羽化間もない未熟なニホンカワトンボが複数匹見られました。高みのエノキでは巻きついたフジづるで木のぼりをしたりブランコをして楽しんだりしました。ヒメスギカミキリなどカミキリムシの仲間4種が見られました。次いで山を下りて谷津を巡りました。水路の上では成熟したニホンカワトンボがひらひら飛んでいました。ヤマサナエが羽化して翅を伸ばしている最中のもも観察しました。羽化殻も数個ありました。田んぼではシオヤトンボ、シオカラトンボ、ホソミオツネトンボの姿がありました。どの田んぼもメダカが群れていました。シュレーゲルアオガエルの合唱と新緑の木々の中でさわやかな気持ちの良い観察会でした。今日は地主さんに来ていただき、枯れ木の伐倒をしました。

(参加者 大人24名、高校生7名、小中学生11名、幼児3名； 報告：網代春男)

第175回 下大和田 YPP「田起こし」

2015年5月9日(土) くもり

一週間後の田植えを前にコシヒカリを植える田んぼの田起こしと草取り、代かきをしました。田起こしとしてはこれまでに最多の参加者数で田んぼは大にぎわい。子どもたちも鍬を持って起こしたり、しつこい雑草を抜いて畦に運んだり、活躍してくれました。午前中にはコシヒカリの田んぼはすぐに田植えができるきれいな状態になりました。午後は古代米を植える田んぼの草取りをして準備万端。子どもたちは魚採りの網を持って水路で生きもの探しに興じていました。

(参加者 大人38名、小中学生23名、幼児4名、報告 高山邦明)

第176回 下大和田 YPP「田植え」

2015年5月16日(土) 雨のちくもり

あいにくの雨。しかも時折激しく降り、一時は開催をどうしようかと話し合ったほどでした。田植えでこんな天気になるのは初めてです。でもそんな雨模様にもかかわらずお子さん連れのご家族をはじめとて実にはたくさんの方が駆けつけてくださりました。最初に田植えの仕方を覚えてもらってから、スタート。色とりどりのカッパを身につけ。家族で一緒に列を作って植えたり、一人でどんどん植えたり、皆さん、時に真剣に時に楽しそうに植えていました。人数が多い以上に、今年の皆さんはとて一生涯懸命作業してくださったので、午前中にはコシヒカリを植える田んぼの方の目処がたち、雨がやんだ午後は緑米や他の田んぼまでどんどんと田植えを進めることができました。翌日の日曜日にも作業が行われ、今年の田植えはほぼ終わりました。



田植えを終えて皆さん、笑顔がいっぱい(撮影：田中正彦氏)

(参加者 大人30名、小学生18名、幼児8名、報告 高山邦明)

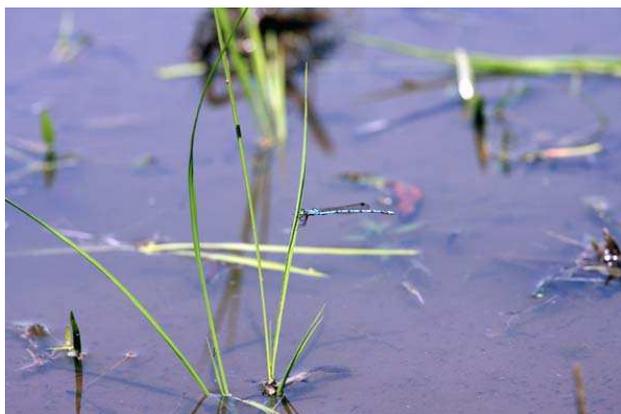
第119回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」

2015年5月17日(日) 晴れ

さわやかな青空に恵まれ、小山の田植えがスタートしました。最初はコシヒカリです。畦の草刈りと田んぼの中の草取りをしてから、ちょうど植えやすい大きさに苗代で育った苗を植えました。シオヤトンボ、シオカラトンボがせわしく飛び回り、ウグイスが熟達の歌声を聞かせる谷津田は初夏の香りでいっぱい。キビタキの美しいさえずりまで聞こえてきました。小山の田植えはこれから少しずつ進めていく予定です。

(参加者 大人4名、報告 高山邦明)

植えた苗で羽を休めるホソミオツネトンボ
(撮影：高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 5月17日 キビタキがさえずる。上空からホトトギスの鳴き声も聞こえた。今年生まれの小さなアカガエルが畔際にたくさんいた。オオイトトンボが田んぼを飛翔（高山）。
- 5月24日 キビタキが斜面林でさえずる。アシ原からオオヨシキリの声がしていた。上空ではカラスに追われてサンバが林から飛び出してきた。畔ではドクダミの白い花が目立つ（高山）。
- 5月31日 斜面林の縁でホタルブクロが咲きはじめる。ホオシロがあちこちでさえずっていた。田んぼではホソミオツネトンボがイグサに卵を産み付けていた（高山）。

下大和田

- 5月13日 クロアゲハとモンキアゲハが田んぼで吸水（網代）。
- 5月15日 ホトトギス初めて声を聴く。ナガサキアゲハが田んぼで吸水（網代）。
- 5月16日 ヒバカリが4匹も出沒。アシ原でオオヨシキリがさえずる（高山）。
- 6月1日 ツバメ2羽が田んぼの土を取りに来ていた。巢の補修に使うのでしょうか（網代）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第177回下大和田 YPP「田の草取り」(兼、第5回米づくり講座)

5月に植えた稲は順調に生育しています。一方で一緒に育っている田んぼの草を取ります。

日時：2015年6月13日（土）9時45分～14時 *小雨決行

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合：中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円）

持ち物：弁当、飲み物、長靴（田んぼが泥深いので長いもの）、帽子、軍手、敷物。

参加費：ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催：ちば環境情報センター 共催：ちば・谷津田フォーラム

▼第186回 下大和田 7月の谷津田観察会とごみ拾い

赤とんぼが羽化してトンボが賑やかになる頃です。トンボの調査もします。カブトムシやクワガタムシも姿を現す頃です。

日時：2015年7月5日（日）9時45分～12時 ☆小雨決行

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集合：中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（下大和田 YPP に同じ）

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費：100円（小学生以上、資料代など）

主催：ちば・谷津田フォーラム 共催：ちば環境情報センター

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時：2015年6月14日（日）、6月19日（金）いずれも9時45分～15時

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上） 持ち物：飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催：ちば環境情報センター

▼第120・121回 小山町 YPP「古代米の田植え」

田植えの後半は緑米と赤米を植えます。梅雨の季節に行う昔ながらの田植え作業です。

日時：2015年6月13日（日）・6月21日（日）10:00～12:30、小雨決行

場所：千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物：飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費：100円（小学生以上、資料代など）

主催：ちば環境情報センター

編集後記 今年の4月は雨が多く、5月に入ると逆に雨が少なく、気温が記録的に高く、野菜の生育に影響が出て、高値が続いていますね。気象庁の3か月予報によると、今月は雨が少なめで、7月に入ると逆に多め、8月は平年よりも晴れの日が少ない見込みとのこと。7月に入ると稲の体の中で穂の準備が始まります。米づくりにはとても大切な季節、これからますます空模様が気になります。（高山 邦明）